

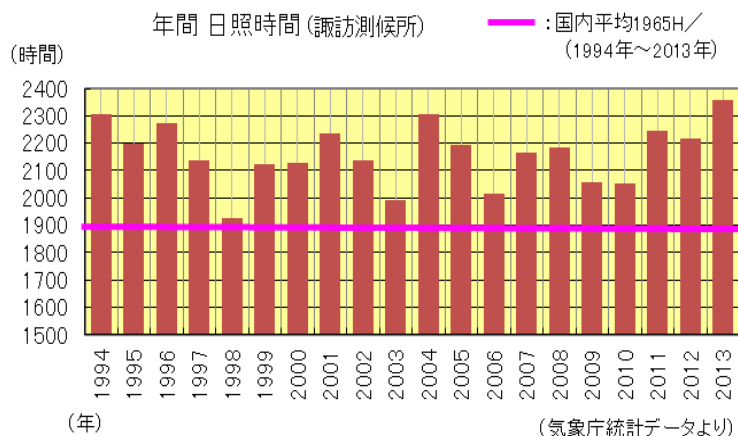
# 第1章 岡谷市の環境の状況

## 1. 岡谷市の位置・地勢

◇ 本市は、長野県のほぼ中央、諏訪湖の西岸に位置し、遠くは富士山、八ヶ岳連峰を望む、湖と四季を彩る山々に囲まれた風光明媚な都市です。面積は 85.19 km<sup>2</sup>で、人口集中地区面積は 11.3 km<sup>2</sup>、市域は東西 7.3 km、南北 16.7 kmに広がっており、7割近くを森林が占めています。

地質は、内部に火山岩をもち、その表面はきわめて厚いローム層で覆われており、諏訪湖岸の一部に沖積層が見られます。

気候は、内陸気候の特性で年間を通じて降水量が少なく、また気温の年較差や日較差の大きいことが特徴です。空気は乾燥し、日射量は国内トップクラスで、太陽光、太陽熱の有効利用に適していることを示しています。



◇ 本市は、諏訪湖、天竜川をはじめ、横河川、塚間川、十四瀬川、大川などがあり、豊かな水環境に恵まれています。

諏訪湖は、標高 759.3m、周囲約 16 km、面積 13.3km<sup>2</sup>

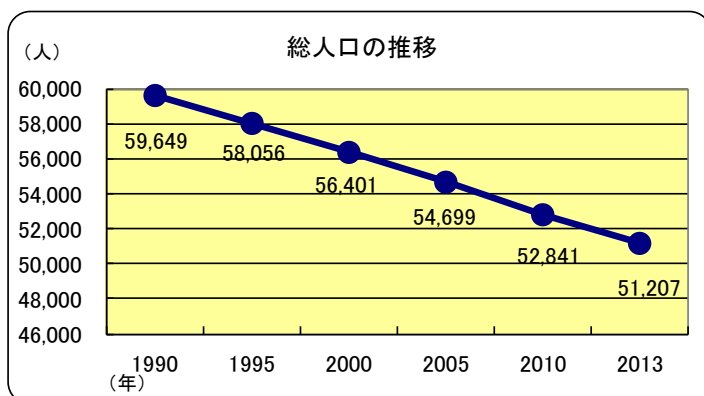
の長野県でもっとも大きな湖であり、コイ、フナ、ワカサギなどの魚類も豊富です。諏訪湖から流れ出す天竜川は、遠く静岡県浜松市に至り、太平洋に注いでいます。

## 2. 交通および社会構成

◇ 本市は、各種交通の要衝となっており、高速交通体系は中央自動車道西宮線、長野自動車道から構成されており、岡谷インターチェンジを介して首都圏、中京圏、北陸圏と結ばれています。また幹線道路として、国道 20 号、国道 20 号バイパス、国道 142 号バイパスや県道下諏訪辰野線、県道岡谷茅野線などが市内を走っています。

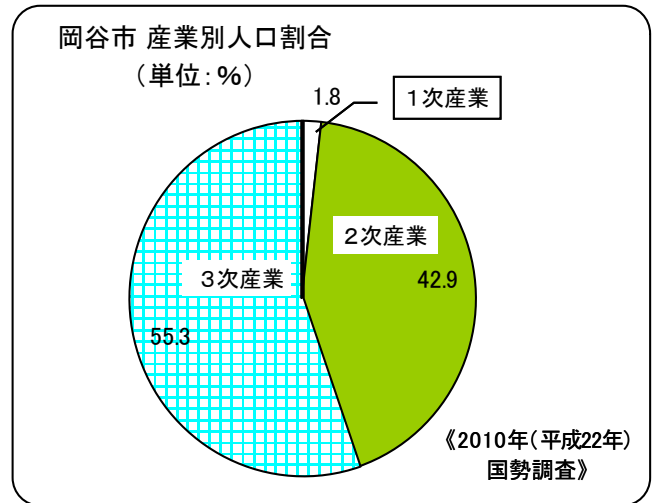
鉄道は中央東線が走り、飯田線の分岐点となっています。

◇ 本市の人口は、昭和 55 (1980) 年の約 62,000 人をピークとしてその後減少傾向を示し、平成 25 (2013) 年 10 月 1 日現在は 51,207 人となっています。



◇ 産業別就業人口の割合（平成 22（2010）年国勢調査）は、第 1 次産業が 1.8%、第 2 次産業が 42.9%、第 3 次産業が 55.3%となっています。

平成 12（2000）年国勢調査では工業都市を反映して、第 2 次産業が主力を占めていましたが、平成 17（2005）年の国勢調査から第 3 次産業がトップとなっております。



◇ 農家数は、昭和 35（1960）年以降、減少傾向を示しており、農家人口は平成 12（2000）年が 885 人、平成 17（2005）年が 604 人、平成 22（2010）年には、449 人となっています。（2013 年度諏訪地方統計要覧）

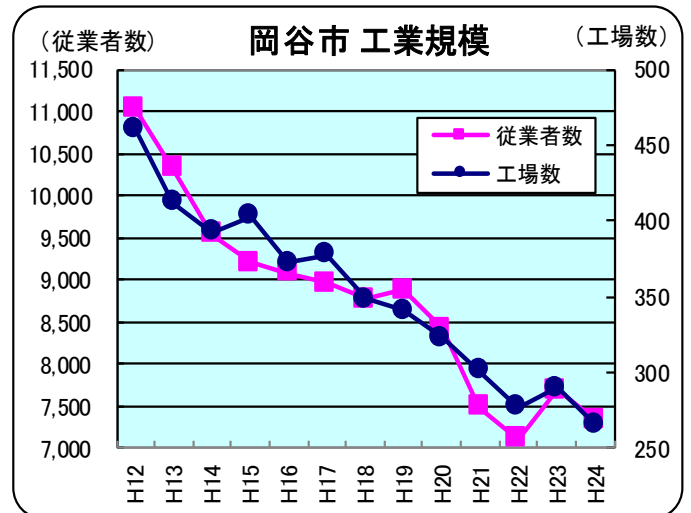
◇ 工業は、明治時代中期から昭和初期にかけて「シルク岡谷」として世界にその名を馳せ、第二次世界大戦後は時計やカメラなどの精密工業都市として発展を続けてきました。

近年では、経済のグローバル化の進展、ものづくり産業の空洞化、環境問題への対策など厳しさを増しています。

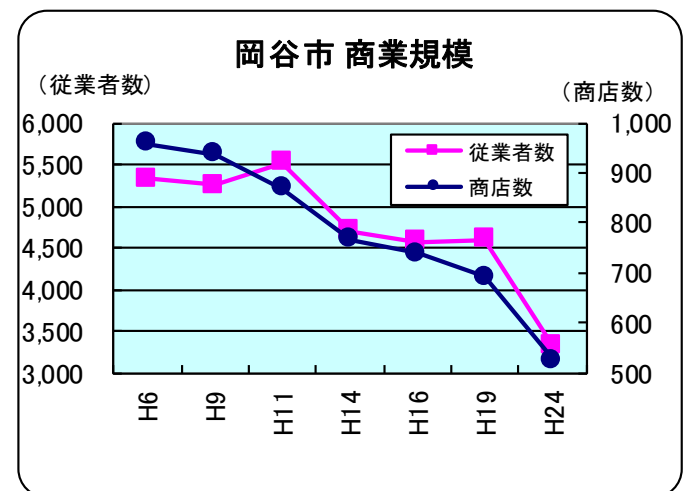
こうした中、『岡谷市工業活性化計画』を策定し、社会経済の変化、企業の経営戦略の再編を踏まえて、既存企業の構造転換と新たな産業基盤の構築に向けて、工業集積都市岡谷を活性化する施策を展開しています。

商業は、自動車交通の進展による消費者の行動パターンの変化や長引く景気低迷の影響により、まちなかの空洞化とともに、小規模小売店数や従業員数が減少しています。

地域密着型店舗の育成や魅力的な店舗の創造、年間をとおした中心商店街のにぎわいの創出が求められています。



(平成 25 年度版諏訪地方統計要覧 対象：従業者数 4人以上)



(平成 25 年度版諏訪地方統計要覧 対象：従業者数 4人以上)

### 3. 第2次岡谷市環境基本計画の総括

『第2次岡谷市環境基本計画』（2010年～2014年）の各施策および基本目標について、その実態と指標の結果を総括します。



#### 基本目標 1. かけがえのない地球環境を守るまち

《地球環境の保全》

- (1) 地球温暖化\*防止のために市民が手軽にできる緑のカーテン\*事業について、事業所などとの協働による取組が活発に行われ、日常の暮らしの中から地球環境の保全への取組が進みました。(図1)
- (2) 企業の環境経営システム導入は、増加の方向ではありますが、新規取得や事業活動推進を図るため、一層の支援が必要となります。
- (3) 間伐などによる育林面積や植林によるCO<sub>2</sub>吸収量は目標を大きく上回りました。(図2)

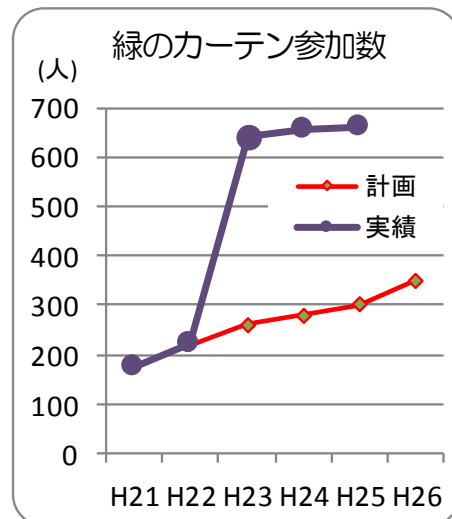


図1



#### 基本目標 2. 豊かな自然とふれあえるまち

《自然環境の保全》

- (1) こどもエコクラブ\*登録数については、期間中わずかに進んだ程度でした。引き続き、自然環境体験、自然環境学習の推進に向けて、子供が参加する環境団体への支援や機会の創出を推進する必要があります。
- (2) 水害や土砂災害の防止に向けた、森林の間伐などによる上流域の治山治水対策において、計画期間中には森林の間伐が積極的に行われ、森林保全への取組が進みました。
- (3) 貴重な水資源の有効利用のため、市民一人ひとりに対する水資源の重要性についての啓発活動として、水の大切さを現地で学ぶ水の探検隊（水道施設の見学会）を実施しましたが、参加者数は目標におよびませんでした。今後は一層取組を強化する必要があります。

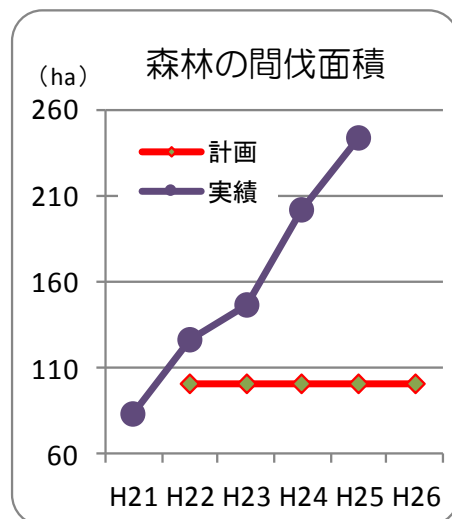


図2



### 基本目標3. 安全で安心なすがすがしいまち

#### 《生活環境の保全》

- (1) 河川や諏訪湖の水質を浄化し、リサイクル\*の実践を図るために市民団体が実施している廃食用油回収事業\*の支援の結果、目標量を大幅に上回る回収実績を記録し、リサイクル\*への取組の強化が図れました。(図3)
- (2) 塚間川などの河川の汚濁の程度を示すBOD\*（生物化学的酸素要求量）は、概ね改善の傾向を示していましたが、河川によっては、高い濃度の年も時々見られ、安定しているとはいえない状況です。引き続き、生活排水、工業排水の適正処理や、重大な水質汚濁につながる灯油などの漏えい防止に努める必要があります。
- (3) 生活排水と雨水の分離、河川や諏訪湖の浄化などに資するため推進している下水道の普及については、ほぼ全戸に下水道が接続している状況ですが、今後も継続して下水道普及率向上を図る必要があります。

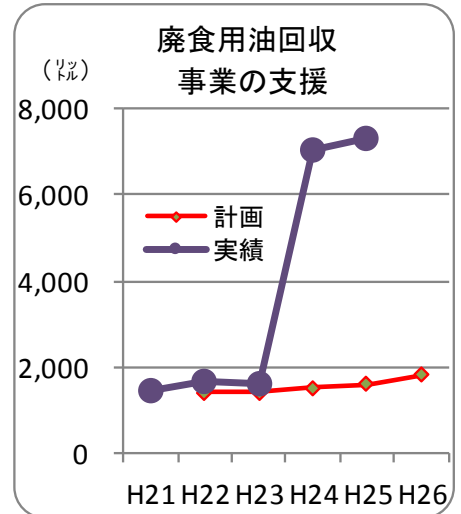


図3



### 基本目標4. ものを大切にすまちなち

#### 《循環型社会\*の構築》

- (1) 市民、事業者、行政が一体となって3R\*（ごみの発生抑制、再使用、再資源化）の推進に取り組んだ結果、目標値を上回る可燃ごみの発生量抑制が図れました。  
今後も、可燃ごみ発生量を減少させるために、3R\*、特に再資源化の促進に取り組む必要があります。
- (2) 生ごみの発生を抑えるよう、買い物や調理の工夫など「環境にやさしいクッキング\*」に努めた結果、市民一人1日あたりの生活ごみ排出量の目標は達成できました。  
今後も、市民一人ひとりが、日常生活において、常に「3R\*の精神」を意識し、励行することによって、生活ごみの排出量を抑制する必要があります。(図4)
- (3) 総ごみ量に占める資源物の割合である資源化率は目標値を下回りました。

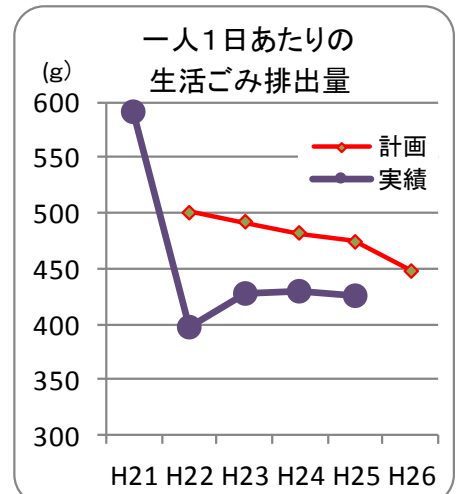


図4

今後は、『容器包装リサイクル法\*』に基づく分別方法を周知徹底し、容器包装のうち、ペットボトル以外の菓子袋や卵パックといった「その他プラスチック\*」のリサイクル\*を推進するとともに、生ごみのコンポスト化（堆肥化）などの資源化促進、さらに、廃棄物の処理と再資源化のシステムについて、『湖周ごみ処理基本計画』に基づき広域的な取組を強化する必要があります。



基本目標5. 美しさと潤いのあるまち

《快適環境の形成》

(1) 『岡谷市都市計画マスタープラン\*』、『岡谷市景観形成基本計画\*』などに基づき、都市緑化を推進してきましたが、市民アンケートによる緑と水辺の創出に対する市民満足度は目標値を大きく下回っています。

今後は、市民が実感できるような都市緑化、水辺の創出に取り組む必要があります。(図5)

(2) 本市では、景観整備による美しい景観の創出を進めてきましたが、市民アンケートによる岡谷市の景観に対する満足度、重要度はいずれも目標値を下回っています。

今後は、質の高い都市環境の整備、創出、文化の薫り高い景観に配慮した都市形成を推進する必要があります。(図6)

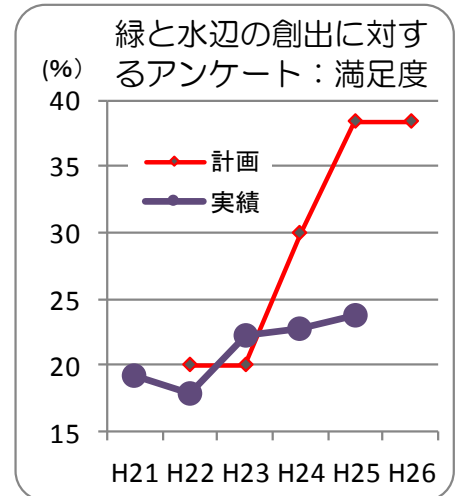


図5



基本目標6. みんなが環境保全に参加するまち

《参加と協働》

(1) 諏訪湖一斉清掃参加者が増加傾向にあり、水辺など環境美化への関心が伺えますが、一方ではごみの分別不良やポイ捨て、不法投棄などが後を絶たない状況にあります。

環境保全の意識の高まりが自発的な行動に結びつくように、教育、学習、および市民、事業者、行政の協働を一層推し進める必要があります。

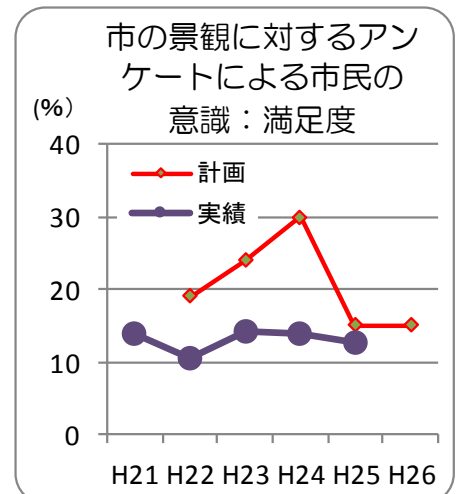


図6

\*第2次岡谷市環境基本計画の「基本目標別、目標指標の推移(平成22年度～平成26年度)」は付属資料の53ページに添付

## 4. 市民の環境保全の意識

市民や小中学生および事業者の環境保全に対する意識についてアンケート調査を行い評価した結果、環境への問題意識や関心が明確になりました。

### 🌲 調査概要

#### ●調査対象

- ・子ども：小学5年生、中学2年生の児童、生徒
- ・一般市民：住民基本台帳より16歳以上の方から無作為に抽出
- ・事業者：市内の事業者から無作為に抽出

#### ●調査方法

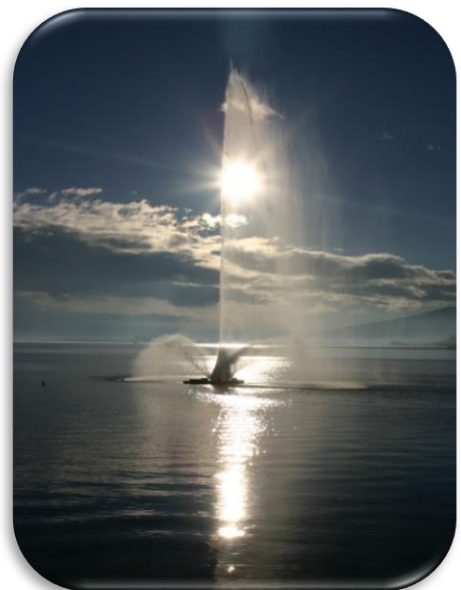
- ・子ども：各校に配布、回収
- ・一般市民：郵送配布、回収
- ・事業者：郵送配布、回収

#### ●調査時期

平成26（2014）年6月

#### ●回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率
子ども	912	807	88.5%
一般市民	1,500	758	50.5%
事業者	1,592	387	24.3%



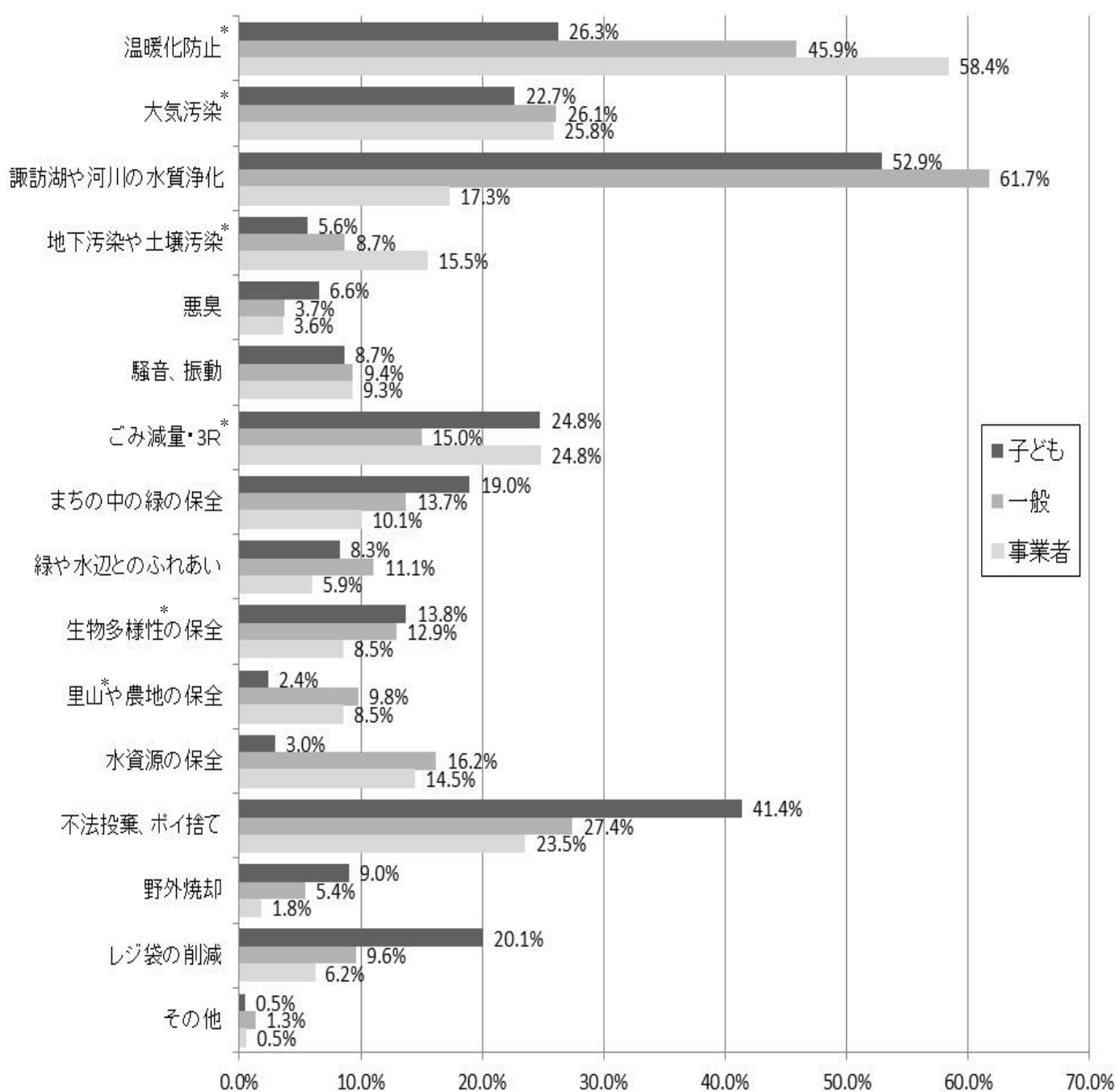
## 🌲 調査結果

### (1) 環境問題への認識

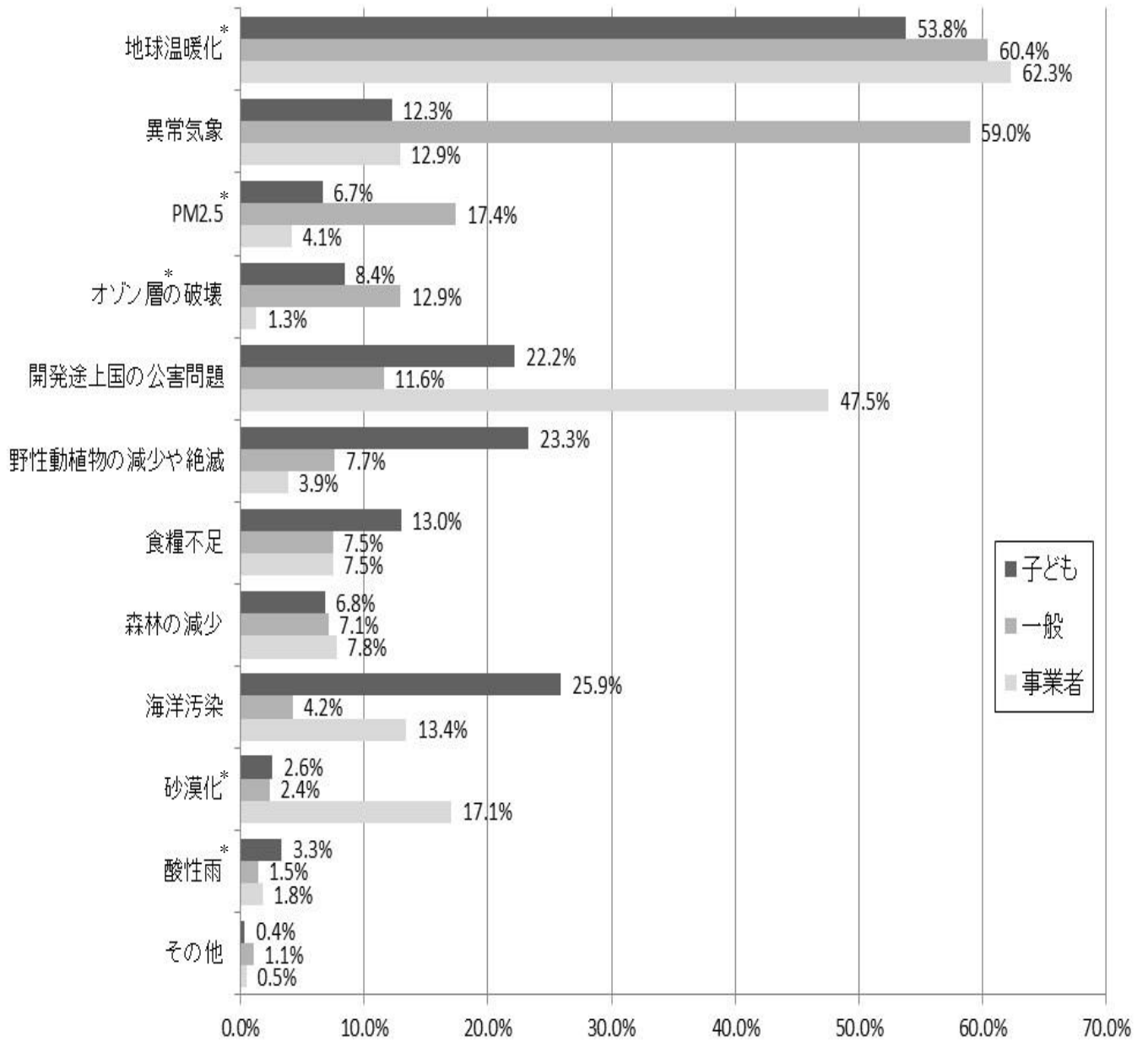
ア. 身近な環境問題としては、「諏訪湖や河川の水質浄化」、および「温暖化防止」、「不法投棄、ポイ捨て」、「ごみ減量、3R\*」、「大気汚染\*」など、日常生活における環境負荷\*低減への関心が高まっていることが伺えます。また、事業者は「温暖化防止」に、子供たちは「不法投棄、ポイ捨て」に、比較的高い関心がある傾向が伺えます。

イ. 地球規模の環境問題としては、「地球温暖化\*」、および「異常気象」への関心が高まっています。また、事業者は「開発途上国の公害問題」に比較的に高い関心があります。

#### 特に関心のある身近な環境問題



特に関心のある地球規模の環境問題

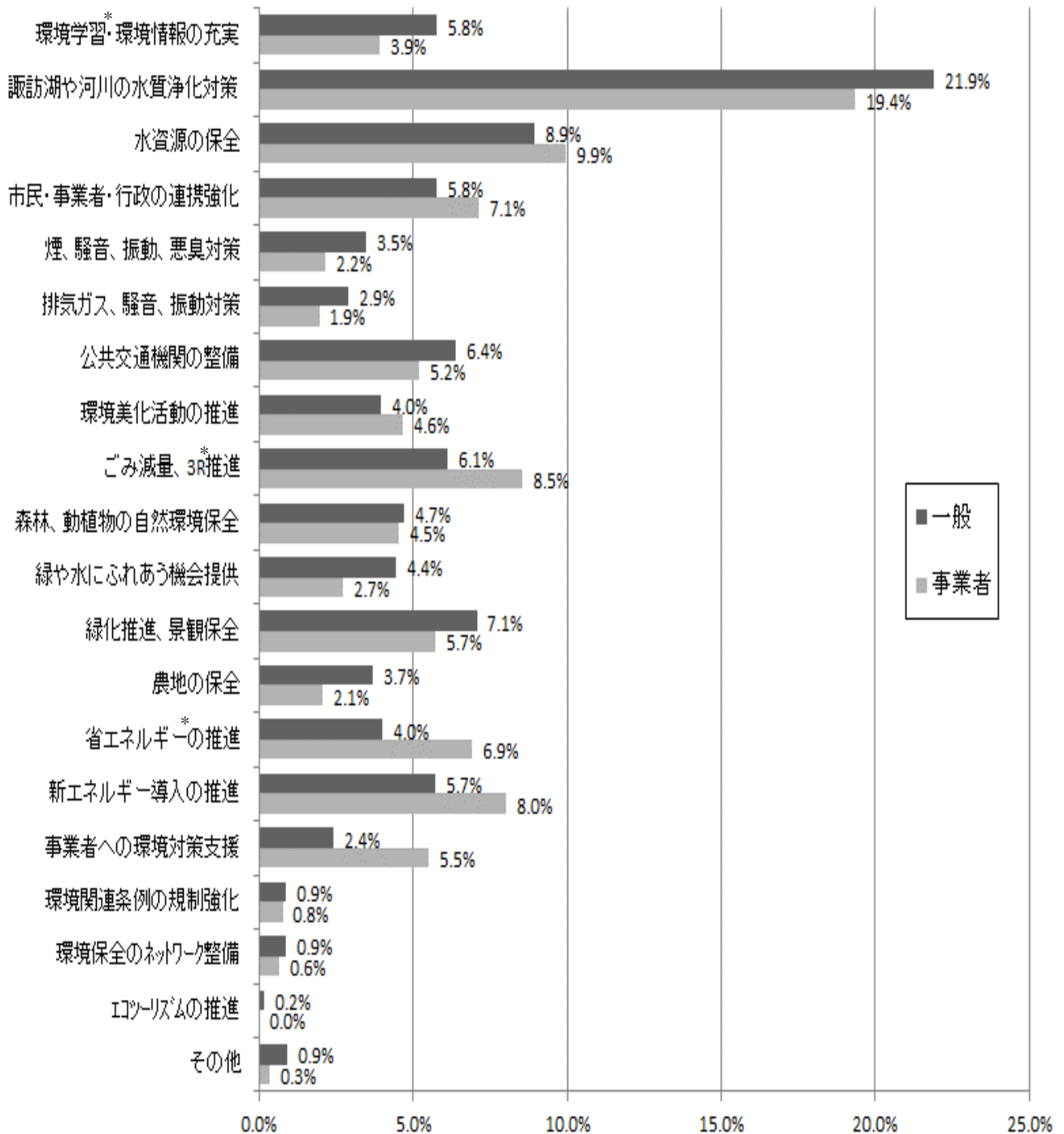




(2) 岡谷市への環境課題取組の要望

優先的に取り組むべきこととして、「諏訪湖や河川の水質浄化対策」、「水資源の保全」、「ごみ減量、3R\*の推進」、「新エネルギー導入の推進」などが要望されています。

環境を良くするために岡谷市が優先的に取り組むべきこと



## (3) 岡谷市の将来の環境について

「河川や湖の水がきれいなまち」や「空気のきれいなまち」、「ごみの散乱のない清潔なまち」を望んでいます。また、「自然」をキーワードにしたまちづくりも要望されています。

**将来の岡谷市がどのような環境のまちになることを望むか**
